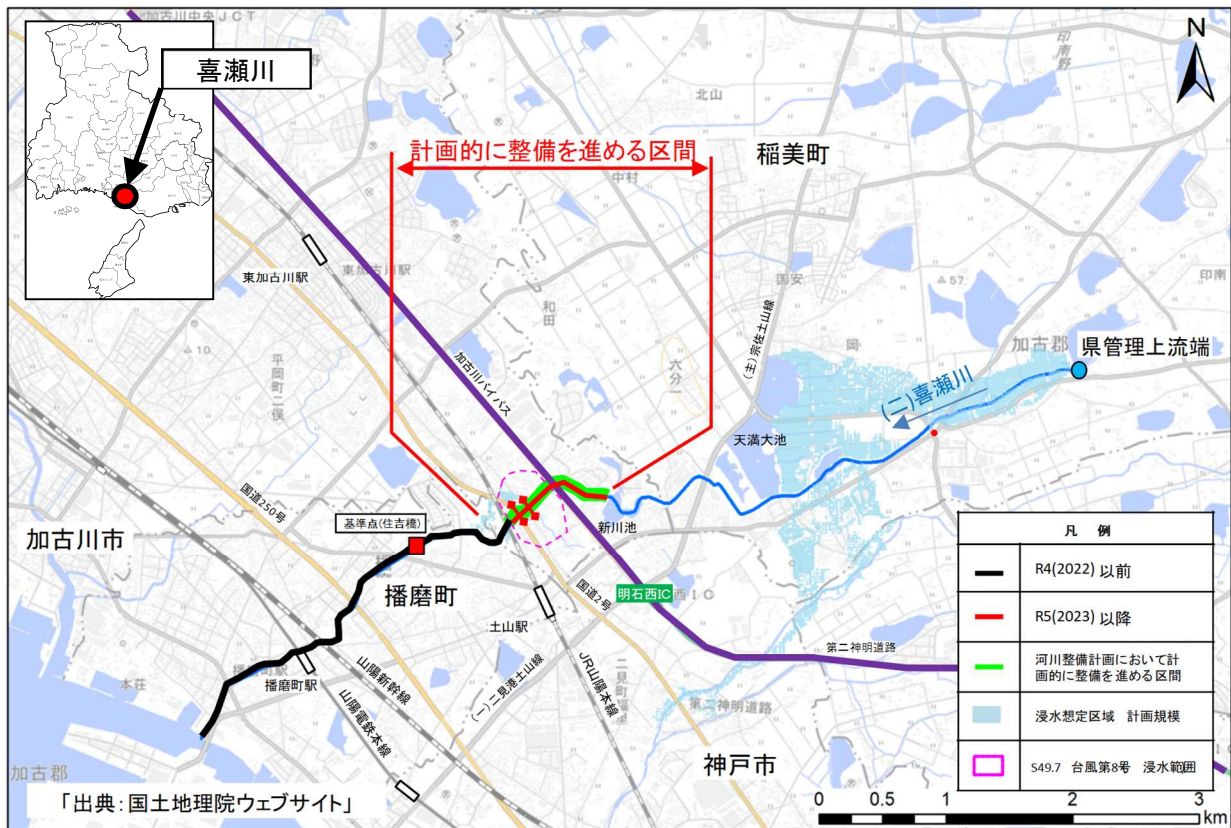


令和4年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

部課室名	土木部 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 勝野 真 (河川・武庫川整備班主幹 矢尾 哲雄)	内線	4408 (4437)
事業種目	河川	水系名	喜瀬川水系		
事業目的					
喜瀬川水系河川整備計画（平成19(2007)年12月）に基づき、概ね30年に1回程度の降雨で発生する洪水を安全に流下させる。					
喜瀬川水系 河川整備計画における「計画的に整備を進める区間」					
本川					
	区間	延長	整備目標	事業の状況	前回評価年度
	喜瀬川 加古川市平岡町土山	0.94km	概ね 30 年に 1 回程度の降雨で発生する洪水を安全に流下させる	事業中	H29(2017) 再評価

喜瀬川水系喜瀬川 河川整備計画 全体位置図

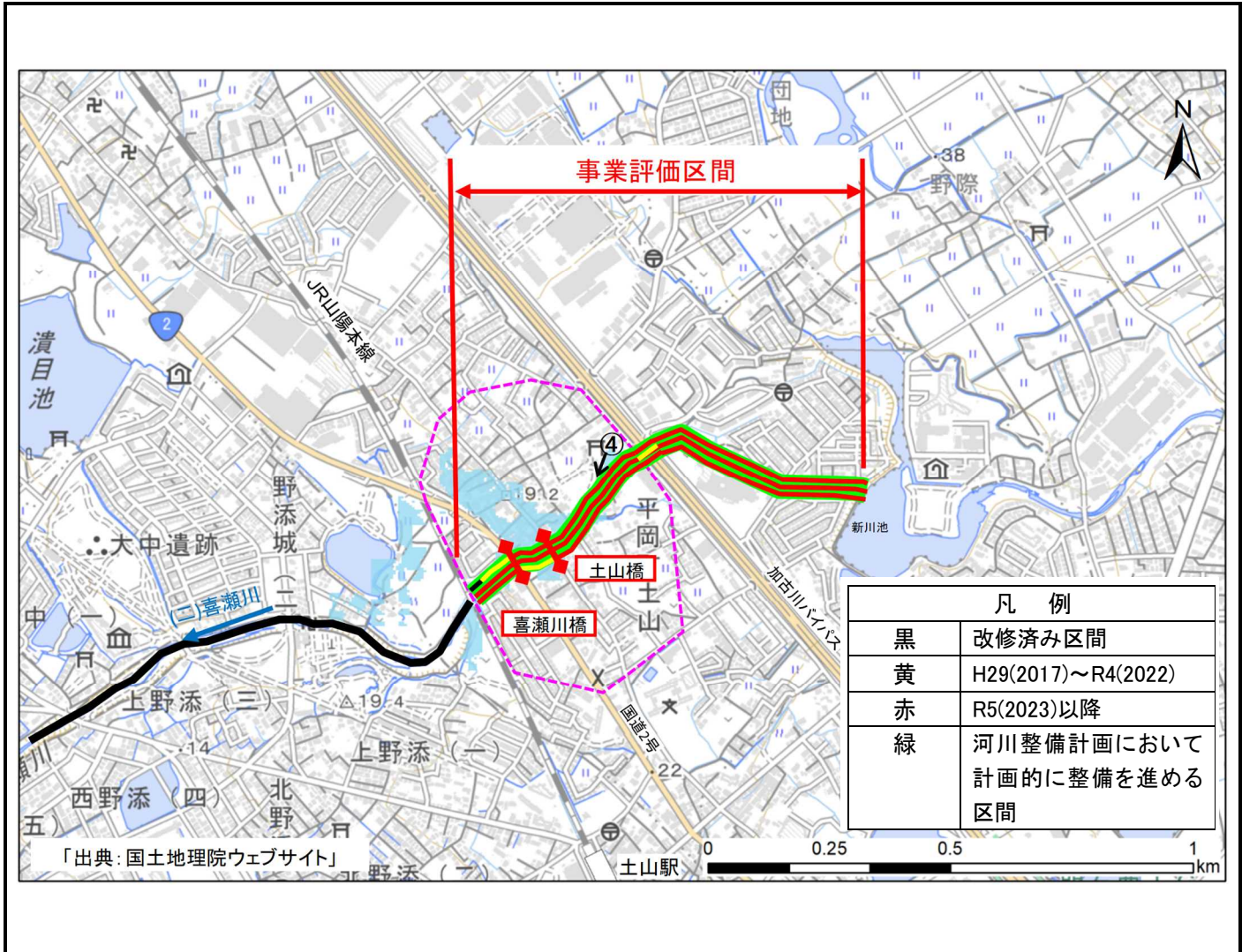


【 喜瀬川 加古川市平岡町土山 】

事業概要および進捗状況			今回評価内容 (): 前回評価時点				
工区	事業区間	整備内容		全体事業費	進捗率	残事業費	完成予定年度
喜瀬川	加古川市 平岡町土山	河道改修 940m 橋梁架替 2橋	事業費	21億円 (14億円)	24% (22%)	16億円 (10.9億円)	R13 (R6)
			内用補	5億円 (5億円)	40% (40%)	3億円 (3億円)	

事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する地元の要望は強まっている。	
	【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 下記の理由等により、事業費および事業期間を変更する。(7億円増、7年延伸) [事業費] ・橋梁架替時の代替路について迂回路方式から仮橋方式へ変更したことによる増額。 [事業期間] ・用地交渉が難航していることによる事業期間の延伸。	
進捗状況	・平成24年度より J R 橋梁から国道 2 号橋梁までの用地取得に向け、交渉しているものの一部難航している。 ・上下流の流下能力に十分配慮し、整備可能な箇所から進めている。	
評価視点	評価結果の説明	
審査会意見及び対応方針 (H29年度再評価)	【審査会意見】 ①進捗管理を徹底するとともに、住民との協議により橋梁の統廃合を図るなど、効率的な整備を進め、早期に事業が完了し効果が発現するように努められたい。 ②すでに完了した河川改修の事業効果を情報発信することで、事業に対する理解を得るように努められたい。	【対応方針】 ①すべての用地協力を待つのではなく、一定区間の協力を得られたところから整備を進めている。 ②県では台風などの出水により事業効果が確認できた場合に H P 等で積極的に発信している。今後、喜瀬川においても事業効果が確認できれば情報発信を行い、河川事業に対する理解を得よう努める。
(1) 必要性	J R 山陽本線の上流は計画流量165m ³ /sに対し、現況が概ね90m ³ /s しかなく、昭和49年7月豪雨など浸水被害が発生しており、浸水被害防止に向け、治水安全度の向上が必要である。	
(2) 有効性・効率性 (事業執行環境)	①費用便益比：B/C=5.3 (河川整備計画における全ての事業による費用便益比) ②既存の護岸が利用可能な区間においては、嵩上げ等に対応し、コスト縮減や工期短縮を図るなど、効率的に改修を進める。 ③当該事業について地元から早期事業完成の要望がある。	
(3) 環境適合性	①河床に滲筋を整備することにより、平常時においても多様で変化のある流れを確保し、生物の生活環境に配慮する。	
(4) 優先性	残事業区間には人家連担区域が含まれており、流下能力不足による大きな浸水被害が想定されている。	
の再評価結果	継続	左の理由 事業の必要性は、事業採択時と変わって追わず、地域住民の安全安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。

喜瀬川 整備概要図



工区	河川整備計画全体	前回評価 H29(2017)まで	前回評価から R4(2022)まで	今後5年間 R5(2023) ~ R9(2027)	今後6~10年間 R10(2028) ~ R14(2032)
喜瀬川 水系 喜瀬川	H19~R13年度 【事業費=21億円】 ・整備延長 L=940m ・整備概要 河道拡幅 橋梁架替 2橋	H19~H29年度 【事業費=2.6億円】 ・河道拡幅	H30~R4年度 【事業費=2.1億円】 ・河道拡幅	R5~R9年度 【事業費=12.3億円】 ・河道拡幅 ・橋梁架替 1橋	R10~R13年度 【事業費=4.0億円】 ・河道拡幅 ・橋梁架替 1橋
		流下能力の向上	流下能力の向上	流下能力の向上	流下能力の向上

工程表

■ : 前回計画
■ : 実施・計画

工程	年度														
	~H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
調査設計	■	■													
用地測量	■	■	■	■											
用地補償	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
掘削	■	■				■	■	■	■				■	■	■
河道改修 (築堤・護岸)	■		■	■	■	■	■	■	■				■	■	■
橋梁				■ (国)喜瀬川橋 (市)土山橋						■ (国)喜瀬川橋 (市)土山橋					

現況写真

①完成区間(JR山陽本線上流)



②残事業区間(国道2号 喜瀬川橋上流)



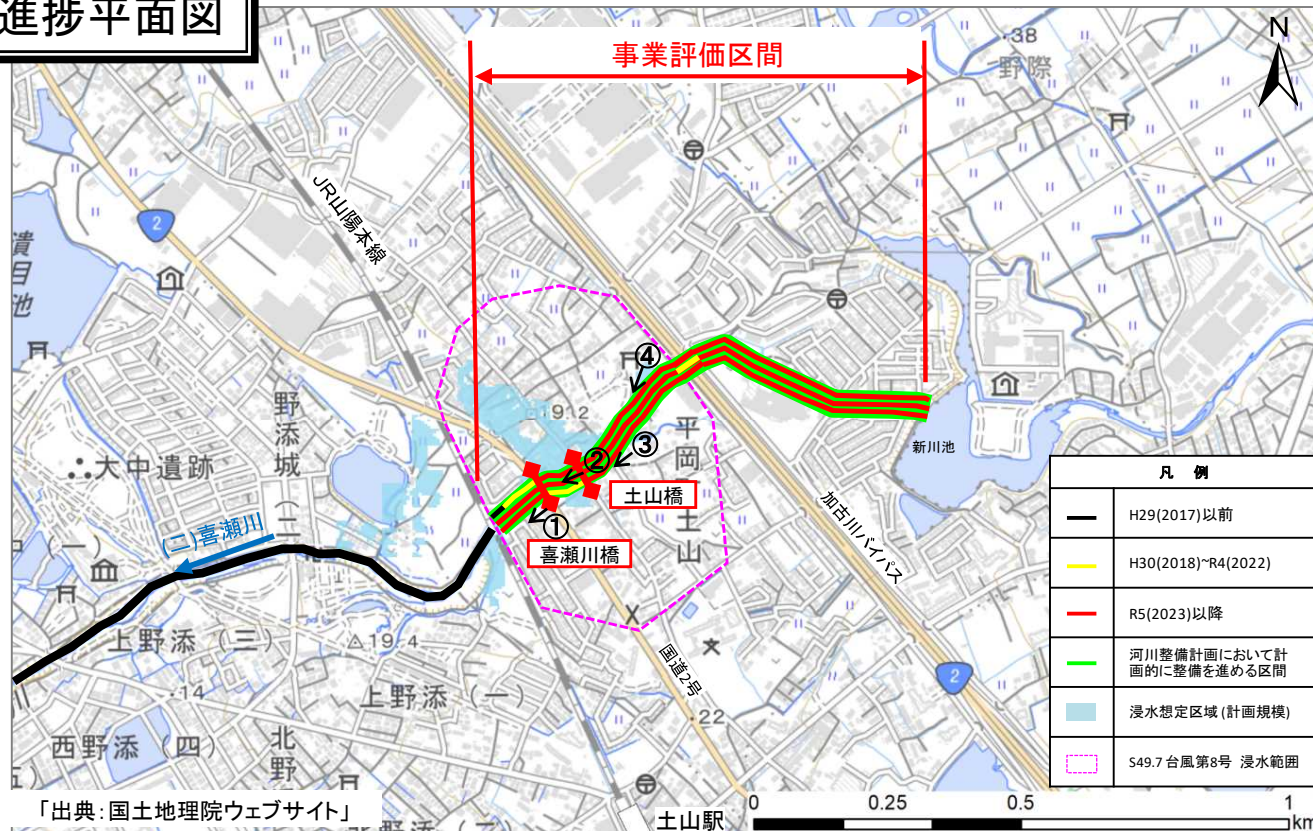
③残事業区間(土山橋上流)



④残事業区間(加古川バイパス下流)



事業進捗平面図



事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

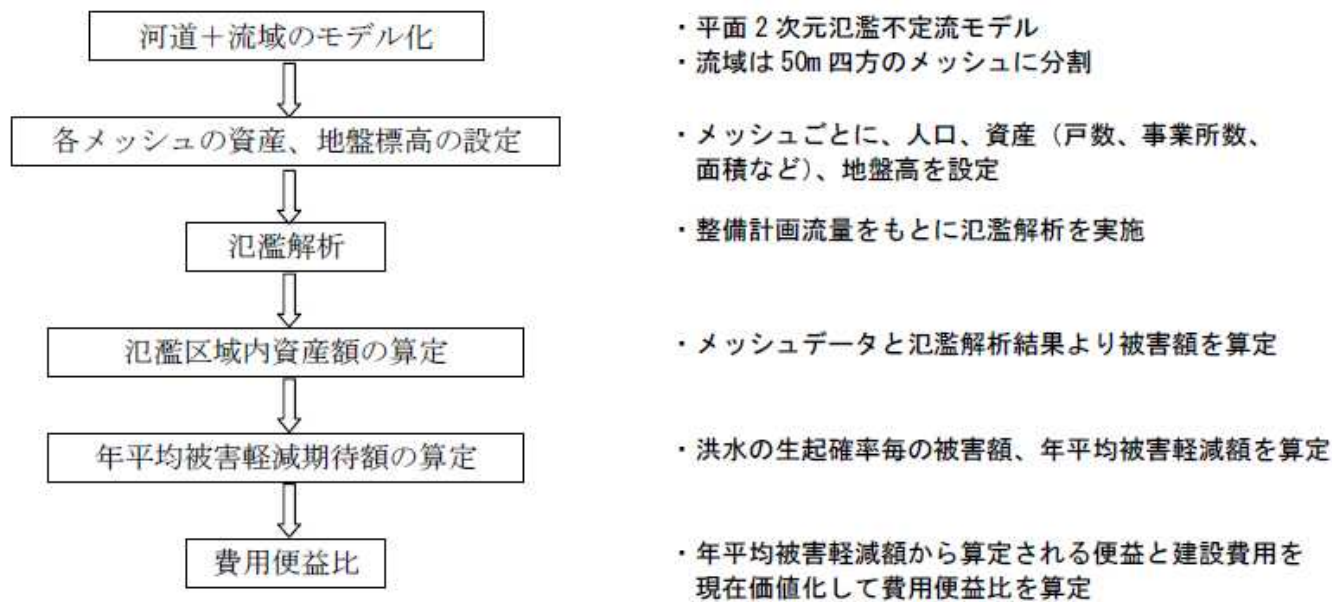
① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> ・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等) ・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用

1) 便益 = 「治水事業を実施することによる被害軽減期待額」を現在価値化

被害額 = 一般資産被害 + 農作物被害
 + 公共土木施設等被害
 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化



② 費用便益費(B/C)算出根拠

B(便益)		C(費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
11,678 百万円	浸水面積 10.5haの解消 (確率規模30年)	2,198 百万円	1,975 百万円	223 百万円	5.3

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減
	水害廃棄物の発生の軽減
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出
	親水空間の整備・景観への配慮

該当する事業内容等	
○	・浸水区域内人口 632人、災害時要援護者244人を解消 ・最大孤立者数282人を解消
○	・国道2号(交通量17,672台/日)の交通途絶を解消
○	・電力の使用不能者186人、ガスの使用不能者37人、 固定電話・通信の使用不能者166人の解消
○	・水害廃棄物444t、処理費用12.5百万円の解消
○	・河床に滞筋を整備することにより、平常時においても多様で変化のある流れを確保し、生物の生活環境に配慮
○	・緩傾斜護岸の整備により配慮する。

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	加古川市治水対策促進会及び加古川市より毎年11月頃に、喜瀬川の河川改修についての要望書が提出されている。
-------	--

参考：事業の変遷

昭和47年：6月洪水(浸水家屋75戸) 7月洪水(浸水家屋161戸)
昭和49年：7月洪水(浸水家屋178戸)
昭和52年：中小河川喜瀬川改良工事全体計画書策定 (小規模河川改修事業着手(L=3,086m 山陽電鉄～新川池))
平成16年：喜瀬川水系 河川整備基本方針策定 JR山陽本線 喜瀬川橋梁までの整備完了(L=2,146m)
平成17年：総合流域防災事業に移行((L=3,086m 山陽電鉄～新川池)
平成19年：喜瀬川水系 河川整備計画策定(L=960m JR山陽本線～新川池)
平成20年：河川整備計画の公共事業等審査会への報告
平成24年：事業評価(再評価第1回)
平成30年：事業評価(再評価第2回)
令和4年：事業評価(再評価第3回)